|  |  |
| --- | --- |
| 和歌山盲ろう者友の会　ヒアリングシート | |
| 日　時 | 平成２５年１０月３０日 |
| 訪問箇所 | ①社会福祉法人串本町社会福祉協議会　②串本町役場福祉課 |
| 訪問者氏名 | 瀬戸 節子（事務局長）・天野 裕子（事務局次長） |
| 対応者部局・職氏名 | ①深海 豊（主任） ②瓜田 真理子（副課長）・勝山 典明（主任） |
| ヒアリング内容  対応内容 | 和歌山県内に盲ろう者が３００人以上いると推定される。串本町にも盲ろう者が暮らしており、当事者はもちろんご家族の方もどうしていいか分からずにいるのが現状です。現在は「個人情報」という壁があり、なかなか個人の情報を知り得ることができないことや当会が盲ろう者の自立と社会参加促進を目的として活動している旨を説明。  盲ろう者についてのプレゼンシートを手渡し、当会のリーフレットの配置をお願いした。  リーフレットの配置について快諾を得、民生委員などを通して情報が入れば連絡しますと回答をいただく。 |
| 当会からの要望内容 | 地域で暮らす盲ろう者の情報の窓口になっていただくことを要望。  地域の中で見えにくさ聞こえにくさを訴えられている方の情報を入手した場合、当会に連絡いただきたい旨を説明。  県内の盲ろう者が一人でも多く公的支援を受けて人として当り前の暮らしができるよう協力をお願いした。 |
| 今後の対応方針 | 地域で盲ろう者の存在が分かった際、当会の事務局スタッフと当会に登録している盲ろう者に加え自治体職員や議員等に同行してもらい、盲ろう者のご自宅を訪問する。そこでご家族の方のお話を聞き、こちらからは当会の活動内容を詳しくお伝えし、コミュニケーション支援の確保についての説明もさせていただきながら当事者とご家族の方に理解を得られるよう努めていく。  地域の盲ろう者を支援するために、串本町において「盲ろう者向け通訳・介助者養成研修会」を開催する。 |
| 備　考 |  |

|  |  |
| --- | --- |
| 和歌山盲ろう者友の会　ヒアリングシート | |
| 日　時 | 平成２５年１０月３１日 |
| 訪問箇所 | ①社会福祉法人那智勝浦町社会福祉協議会　②那智勝浦町役場 |
| 訪問者氏名 | 瀬戸 節子（事務局長）・天野 裕子（事務局次長） |
| 対応者部局・職氏名 | 担当者 |
| ヒアリング内容  対応内容 | 和歌山県内に盲ろう者が３００人以上いると推定される。那智勝浦町にも盲ろう者が暮らしており、当事者はもちろんご家族の方もどうしていいか分からずにいるのが現状です。現在は「個人情報」という壁があり、なかなか個人の情報を知り得ることができないことや当会が盲ろう者の自立と社会参加促進を目的として活動している旨を説明。  盲ろう者についてのプレゼンシートを手渡し、当会のリーフレットの配置をお願いした。  リーフレットの配置について快諾を得、民生委員などを通して情報が入れば連絡しますと回答をいただく。 |
| 当会からの要望内容 | 地域で暮らす盲ろう者の情報の窓口になっていただくことを要望。  地域の中で見えにくさ聞こえにくさを訴えられている方の情報を入手した場合、当会に連絡いただきたい旨を説明。  県内の盲ろう者が一人でも多く公的支援を受けて人として当り前の暮らしができるよう協力をお願いした。 |
| 今後の対応方針 | 地域で盲ろう者の存在が分かった際、当会の事務局スタッフと当会に登録している盲ろう者に加え自治体職員や議員等に同行してもらい、盲ろう者のご自宅を訪問する。そこでご家族の方のお話を聞き、こちらからは当会の活動内容を詳しくお伝えし、コミュニケーション支援の確保についての説明もさせていただきながら当事者とご家族の方に理解を得られるよう努めていく。  地域の盲ろう者を支援するために、那智勝浦町において「盲ろう者向け通訳・介助者養成研修会」を開催する。 |
| 備　考 | 那智勝浦町議会議員の山縣 弘明氏に時間を作っていただき、盲ろう者支援についてお話させていただきました。 |

|  |  |
| --- | --- |
| 和歌山盲ろう者友の会　ヒアリングシート | |
| 日　時 | 平成２５年１０月３１日 |
| 訪問箇所 | ①社会福祉法人新宮市社会福祉協議会　②新宮市役所 |
| 訪問者氏名 | 瀬戸 節子（事務局長）・天野 裕子（事務局次長） |
| 対応者部局・職氏名 | ②奥田 亮平（福祉課） |
| ヒアリング内容  対応内容 | 和歌山県内に盲ろう者が３００人以上いると推定される。新宮市にも盲ろう者が暮らしており、当事者はもちろんご家族の方もどうしていいか分からずにいるのが現状です。現在は「個人情報」という壁があり、なかなか個人の情報を知り得ることができないことや当会が盲ろう者の自立と社会参加促進を目的として活動している旨を説明。  盲ろう者についてのプレゼンシートを手渡し、当会のリーフレットの配置をお願いした。  リーフレットの配置について快諾を得、民生委員などを通して情報が入れば連絡しますと回答をいただく。 |
| 当会からの要望内容 | 地域で暮らす盲ろう者の情報の窓口になっていただくことを要望。  地域の中で見えにくさ聞こえにくさを訴えられている方の情報を入手した場合、当会に連絡いただきたい旨を説明。  県内の盲ろう者が一人でも多く公的支援を受けて人として当り前の暮らしができるよう協力をお願いした。 |
| 今後の対応方針 | 地域で盲ろう者の存在が分かった際、当会の事務局スタッフと当会に登録している盲ろう者に加え自治体職員や議員等に同行してもらい、盲ろう者のご自宅を訪問する。そこでご家族の方のお話を聞き、こちらからは当会の活動内容を詳しくお伝えし、コミュニケーション支援の確保についての説明もさせていただきながら当事者とご家族の方に理解を得られるよう努めていく。  地域の盲ろう者を支援するために、新宮市において「盲ろう者向け通訳・介助者養成研修会」を開催する。 |
| 備　考 |  |

|  |  |
| --- | --- |
| 和歌山盲ろう者友の会　ヒアリングシート | |
| 日　時 | 平成２５年１１月１日 |
| 訪問箇所 | ①社会福祉法人白浜町社会福祉協議会　②白浜町役場 |
| 訪問者氏名 | 瀬戸 節子（事務局長）・天野 裕子（事務局次長） |
| 対応者部局・職氏名 | ①奥田 恵美（地域福祉課課長代理）②三栖 健次（民生課長） |
| ヒアリング内容  対応内容 | 和歌山県内に盲ろう者が３００人以上いると推定される。白浜町にも盲ろう者が暮らしており、当事者はもちろんご家族の方もどうしていいか分からずにいるのが現状です。現在は「個人情報」という壁があり、なかなか個人の情報を知り得ることができないことや当会が盲ろう者の自立と社会参加促進を目的として活動している旨を説明。  盲ろう者についてのプレゼンシートを手渡し、当会のリーフレットの配置をお願いした。  リーフレットの配置について快諾を得、民生委員などを通して情報が入れば連絡しますと回答をいただく。 |
| 当会からの要望内容 | 地域で暮らす盲ろう者の情報の窓口になっていただくことを要望。  地域の中で見えにくさ聞こえにくさを訴えられている方の情報を入手した場合、当会に連絡いただきたい旨を説明。  県内の盲ろう者が一人でも多く公的支援を受けて人として当り前の暮らしができるよう協力をお願いした。 |
| 今後の対応方針 | 地域で盲ろう者の存在が分かった際、当会の事務局スタッフと当会に登録している盲ろう者に加え自治体職員や議員等に同行してもらい、盲ろう者のご自宅を訪問する。そこでご家族の方のお話を聞き、こちらからは当会の活動内容を詳しくお伝えし、コミュニケーション支援の確保についての説明もさせていただきながら当事者とご家族の方に理解を得られるよう努めていく。  地域の盲ろう者を支援するために、白浜町において「盲ろう者向け通訳・介助者養成研修会」を開催する。 |
| 備　考 |  |

|  |  |
| --- | --- |
| 和歌山盲ろう者友の会　ヒアリングシート | |
| 日　時 | 平成２５年１２月１６日・１７日 |
| 訪問箇所 | 社会福祉法人 光道園（福井県鯖江市）　〔視察〕 |
| 訪問者氏名 | 瀬戸 節子（事務局長）・天野 裕子（事務局次長）・海瀬 正美 |
| 対応者部局・職氏名 | 江守 勝（鯖江事業所所長）・嵯峨崎 友華（主任）・渡辺 智恵子（主任） |
| 視察内容 | ・昭和３２年１０月に身体障害者更生施設として事業開始。  ・創設者は中道益平氏（２５才で両眼失明し、マッサージ師となる。視覚障害者との係わりの中で重度な盲重複障害者を知る）  ・盲重複障害者の施設は全国でここだけであり、障害程度に合った就労を行っている。入所者は４００人程度。（2013.4.1現在）和歌山県からも７名の方が入所している。その中には盲ろう者もいる。その方と触手話でお話する機会を設けていただいた。盲ろう者だけの施設に入所。  ・園内の職員数も４００人程度。若い人が多く関わっている。  利用者は手厚い支援を受けながら、その人のペースで人間らしい生活を送っている。  ・職員においては採用時に徹底した教育を受ける。  　　園訓（中道氏の教え）  「愛なき人生は暗黒であり  　　　　　汗なき社会は堕落である」  当会も盲ろう者だけの施設の立ち上げを考えているので、部屋の間取りや支援の方向性など参考になった。  盲ろう者が人として当りまえの人生を生きていくために快適に生活できるようなハード面とソフト面を作らなければいけないと再認識した。 |
|  |  |
|  |  |
|  |  |

|  |  |
| --- | --- |
| 和歌山盲ろう者友の会　ヒアリングシート | |
| 日　時 | 平成２６年２月２４日 |
| 訪問箇所 | 橋本市保健福祉センター |
| 訪問者氏名 | 瀬戸 節子（事務局長）・早瀬 仁悟 |
| 対応者部局・職氏名 | 田中 三津子 |
| ヒアリング内容  対応内容 | 和歌山県内に盲ろう者が３００人以上いると推定されることを伝えたうえ、橋本市に１６名の盲ろう者がいるとお聞きした。盲ろうの程度はさまざまでコミュニケーションや情報取得もそれぞれ違う。難聴者は補聴器を使っている。触手話通訳までには至っていないのが現状。  現在は「個人情報」という壁があり、なかなか個人の情報を知り得ることができないことや当会が盲ろう者の自立と社会参加促進を目的として活動している旨を説明。当会が行う交流会やイベントの告知は盲ろう者に発信可能だが、和歌山市内までの移動手段や料金の問題、またコミュニケーション方法などの課題を考えていかなければいけない。 |
| 当会からの要望内容 | 地域で暮らす盲ろう者の情報の窓口になっていただくことを要望。  地域の中で見えにくさ聞こえにくさを訴えられている方の情報を入手した場合、当会に連絡いただきたい旨を説明。  県内の盲ろう者が一人でも多く公的支援を受けて人として当り前の暮らしができるよう協力をお願いした。 |
| 今後の対応方針 | 当会のリーフレットをセンターに置いてもらい、盲ろう者やその家族から相談があれば当会の活動内容等を説明していただいたうえ、連絡をいただく。  盲ろう者が当会の活動に参加可能とするために、公共交通機関を含め移動手段を検討する。  家で寂しい思いをされている盲ろう者が社会参加できるよう支援していく。  地域の盲ろう者を支援するために橋本市において「盲ろう者向け通訳・介助者養成研修会」を開催する。 |
| 備　考 |  |

|  |  |
| --- | --- |
| 和歌山盲ろう者友の会　ヒアリングシート | |
| 日　時 | 平成２６年２月２４日 |
| 訪問箇所 | 社会福祉法人橋本市社会福祉協議会 |
| 訪問者氏名 | 瀬戸 節子（事務局長）・早瀬 仁悟 |
| 対応者部局・職氏名 | 受付担当者 |
| ヒアリング内容  対応内容 | 和歌山県内に盲ろう者が３００人以上いると推定される。橋本市にも盲ろう者が暮らしており、当事者はもちろんご家族の方もどうしていいか分からずにいるのが現状です。現在は「個人情報」という壁があり、なかなか個人の情報を知り得ることができないことや当会が盲ろう者の自立と社会参加促進を目的として活動している旨を説明。  当会のリーフレットと当会紹介のＤＶＤの配置をお願いしたところ、快諾いただく。 |
| 当会からの要望内容 | 地域で暮らす盲ろう者の情報の窓口になっていただくことを要望。  地域の中で見えにくさ聞こえにくさを訴えられている方の情報を入手した場合、当会に連絡いただきたい旨を説明。  県内の盲ろう者が一人でも多く公的支援を受けて人として当り前の暮らしができるよう協力をお願いした。 |
| 今後の対応方針 | 盲ろう者の情報を得た時には、当会の事務局スタッフと当会に登録している盲ろう者に加え自治体職員や議員等に同行してもらい盲ろう者のご自宅を訪問する。そこでご家族の方のお話を聞き、こちらからは当会の活動内容を詳しくお伝えし、コミュニケーション支援の確保についての説明もさせていただきながら当事者とご家族の方に理解を得られるよう努めていく。  当会の新たな告知などがあった場合、郵送する。  それを見やすいように展示したり、分かりやすい広報をしていただく。 |
| 備　考 |  |

|  |  |
| --- | --- |
| 和歌山盲ろう者友の会　ヒアリングシート | |
| 日　時 | 平成２６年２月２４日 |
| 訪問箇所 | 伊都振興局 |
| 訪問者氏名 | 瀬戸 節子（事務局長）・早瀬 仁悟 |
| 対応者部局・職氏名 | 受付担当者 |
| ヒアリング内容  対応内容 | 和歌山県内に盲ろう者が３００人以上いると推定される。橋本市にも盲ろう者が暮らしており、当事者はもちろんご家族の方もどうしていいか分からずにいるのが現状です。現在は「個人情報」という壁があり、なかなか個人の情報を知り得ることができないことや当会が盲ろう者の自立と社会参加促進を目的として活動している旨を説明。  当会のリーフレットと当会紹介のＤＶＤの配置をお願いしたところ、快諾いただく。 |
| 当会からの要望内容 | 地域で暮らす盲ろう者の情報の窓口になっていただくことを要望。  地域の中で見えにくさ聞こえにくさを訴えられている方の情報を入手した場合、当会に連絡いただきたい旨を説明。  県内の盲ろう者が一人でも多く公的支援を受けて人として当り前の暮らしができるよう協力をお願いした。 |
| 今後の対応方針 | 盲ろう者の情報を得た時には、当会の事務局スタッフと当会に登録している盲ろう者に加え自治体職員や議員等に同行してもらい盲ろう者のご自宅を訪問する。そこでご家族の方のお話を聞き、こちらからは当会の活動内容を詳しくお伝えし、コミュニケーション支援の確保についての説明もさせていただきながら当事者とご家族の方に理解を得られるよう努めていく。  当会の新たな告知などがあった場合、郵送する。  それを見やすいように展示したり、分かりやすい広報をしていただく。 |
| 備　考 |  |
| 和歌山盲ろう者友の会　ヒアリングシート | |
| 日　時 | 平成２６年３月２４日 |
| 訪問箇所 | 御坊市役所 市民福祉部 健康福祉課 |
| 訪問者氏名 | 瀬戸 節子（事務局長）・早瀬 仁悟 |
| 対応者部局・職氏名 | 玉置 拓也（係長）・森口 広樹 |
| ヒアリング内容  対応内容 | 盲ろう者がいることを踏まえて、盲ろう者を支援するために３日間（入門）の「盲ろう者向け通訳・介助者養成研修会」を開催する方向へ。  開催場所は、御坊市役所または御坊市社協の会議室を借りる。  日程については、４月と５月の土曜日曜で調整する。 |
| 当会からの要望内容 | 地域で暮らす盲ろう者の情報の窓口になっていただくことを要望。  地域の中で見えにくさ聞こえにくさを訴えられている方の情報を入手した場合、当会に連絡いただきたい旨を説明。  当会のリーフレットと当会紹介のＤＶＤの配置をお願いしたところ、快諾いただく。  一人の盲ろう者に当会への登録をお願いし、公的支援を受けられる方向に持っていく。 |
| 今後の対応方針 | 一人の盲ろう者が「これから先見えなくなったらどうしよう」という不安を訴えているとのこと。  当会が考えているグループホーム立ち上げの話を興味深く聞いていただいた。実現に向けて進めていきたい。  「盲ろう者向け通訳・介助者養成研修会」の開催に向けて日程など具体的に決めていく。 |
| 備　考 |  |